

【経済を読み解く】 最終回「時代の変化」

＜2025/4/29 大分合同新聞掲載＞

「30数年ぶりの高さ、30年連続の減少」。これは何のデータの何を指しているかお分かりになるでしょうか。一つは最近報道されたばかりなので、気付かれる方がいるかもしれません。答えは後ほどお話しします。

突然のことではありますが、長らく続いてきたこの寄稿も、今回で最終回を迎えることになりました。これまで、日本銀行大分支店の寄稿をご覧いただいた読者の皆さま、ありがとうございました。

過去の寄稿タイトルを振り返って見てみると、大分の経済が常に変化にさらされてきたことが改めて感じられます。特に、2019年末から始まったコロナ禍以降は、企業の景況感や街角景気の大幅な悪化と急激な改善、インバウンドの消失と回復など、感染の拡大・落ち着きを繰り返しながら徐々に日常を取り戻し、緩やかな景気回復に移行した変化に富んだ時期でした。

最近では、コロナ感染症が経済に与えた影響も過去の記憶の中にしまわれてしまっているように思われますが、この数年が私たちに与えたものは何だったのでしょうか。日常生活のありがたさや命のはかなさの再認識、日本と世界のつながりの深さとその弊害など、人によって思うところはさまざまかもしれません。

この寄稿で大切にしてきた「データから見る」を軸にすると、時代が大きく変わってきたと思えるものがあります。それは、物価と賃金です。冒頭でお話しした「30数年ぶりの高さ」は、物価の上昇率が1990年代以来の高い水準になっていることを指しています。春闘における賃上げ率も、比較可能な2014年以来、最も高くなっています。

コロナ禍前からさらにさかのぼり1990年代以降の30数年間、大分も含め日本では物価と賃金がほとんど動かない時代が続いてきました。

物価や賃金が上がらなかったことの背景には、バブル崩壊後の1990年代に慢性的な需要不足に陥った際、失業と倒産の増加を受け入れてでも経済の早期立て直しを図るのではなく、さまざまな補助やサポートを国や金融機関などが行いながら、企業に余剰人員を抱えてもらいつつ、企業の倒産も防ぐ方策がと

られたことが、根本的な原因の一つとして存在したと思われます。つまり、企業も人員も需要に対して余剰状態が意図的に維持されたため、競争過多から値上げが難しかったり、人手確保に向けた賃上げを行う必要もありませんでした。そして、物価も賃金も上がらないことが、やがて「当たり前」のこととして、社会全体に根付いていったのです。

このため、日本銀行では、緩和的な金融政策によって需要を刺激する高圧経済の考え方にに基づき、物価や賃金が上昇トレンドに転じるよう促してきました。30数年の間に固定化した物価・賃金やその背景にある意識は容易に変化しませんでした。コロナ禍でのグローバルなインフレにより輸入物価の大幅な上昇が起きたことで、大きな転換点を迎えます。

企業は、コストの上昇が大きすぎて、これまでのようなコスト削減策では到底対応できなくなり、トップライン収益の引き上げ、具体的には価格転嫁による収益確保を迫られるようになりました。そうした動きと同じタイミングで、コロナ禍で隠れていた労働人口・労働時間の減少による社会全体での供給力の低下と、コロナ禍後の景気回復の下での労働需要の増加や、働き方の変化による企業と労働者のニーズのミスマッチが同時に起こり、深刻な人手不足が顕在化しました。23年以降の春闘で非常に高い賃上げが実現することになったのは、その結果と考えられます。うやむやになっていた物価・賃金据え置き of の弊害が改めて認識される中で、人件費の上昇分を価格に転嫁する企業が増えるなど、根強く残っていたデフレからの行動変化が起こっています。

企業や個人は、先行きも物価上昇が続くことを予想しており、賃金についても、企業が賃上げを迫られる環境が続く見通しにあります。冒頭にもう一つ挙げた「30年連続の減少」は、大分県の人口のことを指していますが、大分県では将来的にも、全国平均を上回るペースで人口が減り続けることが予想されています。現在の社会情勢を見渡すと、労働人口や労働時間を増やす方向に転換することは容易ではないため、景気悪化や省人化投資により労働需要が減少したり、労働ニーズのミスマッチが改善しない限り、強い人手不足の状態が続き、賃上げ圧力がかかり続けることになりそうです。

日本経済が大きな転換期を迎える中で、海外でも米国の関税政策の転換などによりグローバルな地殻変動が懸念されており、経済は一つのところに落ち着く様子がありません。時代の変化はさまざまな摩擦を引き起こし、苦しみも生じ

ます。それでも、多くの困難を乗り越えてきた大分経済や先人たちに思うのです、これからの荒波もきっと越えていけるはずだと。

この寄稿は今回をもって幕を閉じますが、日本銀行大分支店では、大分県を中から外から見ながら、そして大分に拠点を置く支店として地元を誇りながら、前向きなアイデアで貢献できればと思っています。定例会の見聞や講演などを通じて情報を引き続き発信していきますので、これからもよろしくお願いいたします。（日本銀行大分支店）